

今後の活動計画

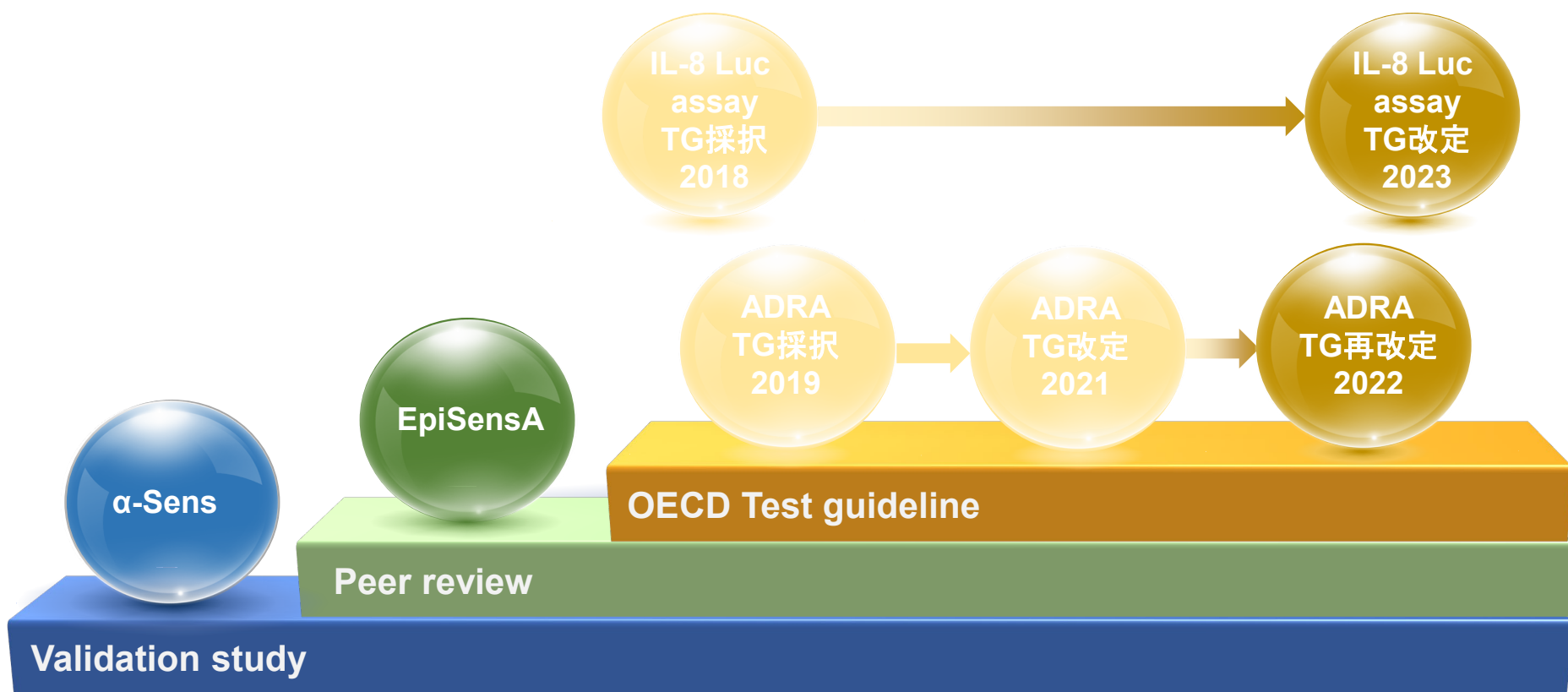


目標1：代替法提案書の取り組み

分類	試験法名	2023年				2024年				2025年			
眼刺激性	SkinEthics TTT	→											
	DA手引き書	→				→							
皮膚感作性	ADRA	→											
	DA手引き書	→				→							
	GARDskin	→				→				→			
発熱性物質	PyroMAT	→				→							
口腔粘膜	Epi-Oral	→				→				→			
反復投与毒性	AI-SHIPS	→				→				→			

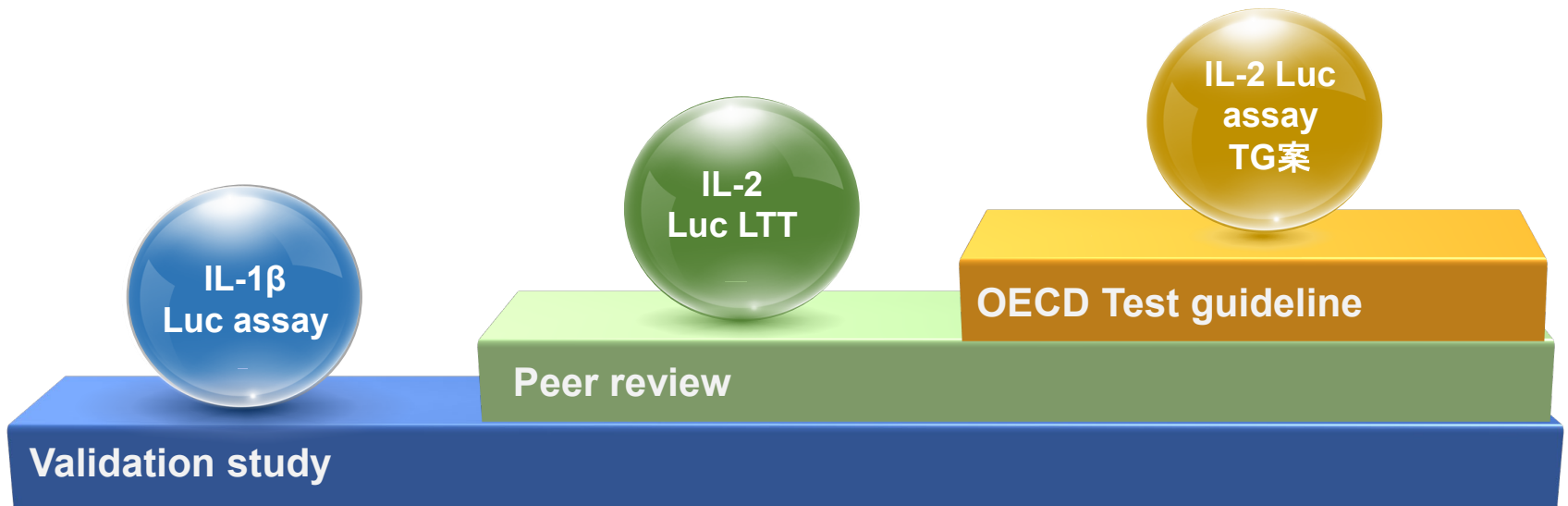
資料編纂委員会 →
 評価会議 →
 運営委員会 →

目標2：OECD TGを目指した皮膚感作性試験 代替法の取り組み



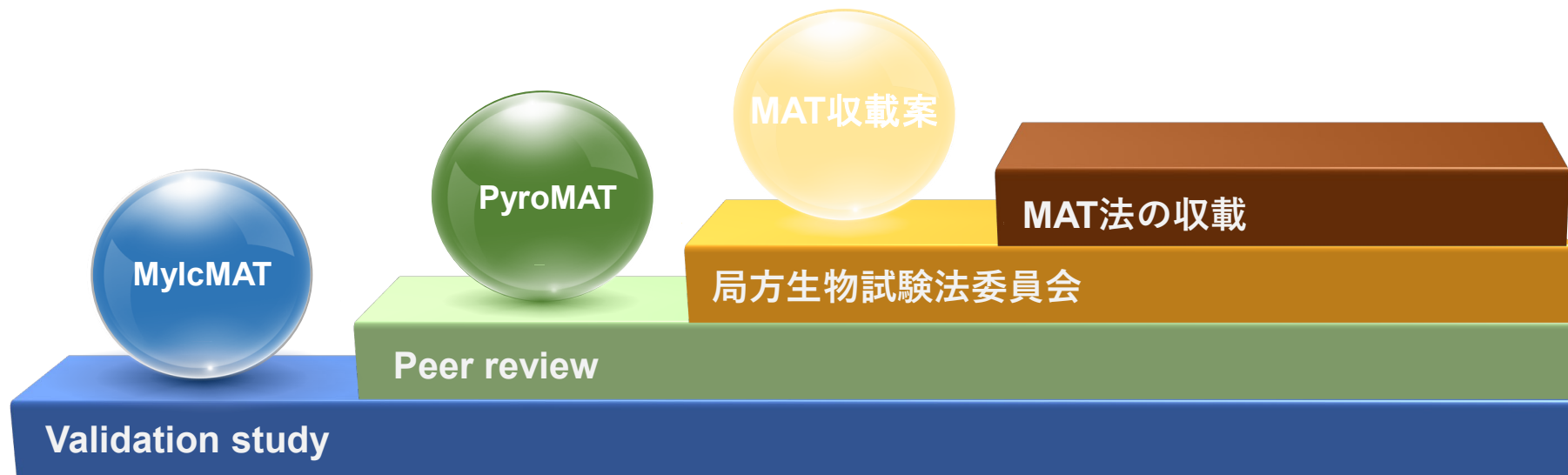
- ✓ ADRA OECD TG再改定 終了 (2022年7月)
- ✓ EpiSensA peer review 終了 (2022年11月)
- ✓ α-Sens validation study 開始 (2023年2月)

目標3：OECD TGを目指した免疫毒性試験 代替法の取り組み



- ✓ IL-2 Luc assay draft TG提出
- ✓ IL-2 Luc LTT peer review 開始（2022年10月）
- ✓ （IL-1レセプター結合阻害をMIEとするAOP scientific review対応）

目標4：日本薬局方へのin vitro発熱性物質 試験代替法（MAT法）の収載



- ✓ MylcMAT Validation study開始（2022年4月）
- ✓ （日局方MAT収載案検討開始（2022年9月））

まとめ

- ✓ 国内提案書の取り組みについては、代替法の組み合わせ開発を促す手引書やin silicoモデルなど、新しい動きに対応して活動していく。
- ✓ 日本が大きな役割を果たしてきた皮膚感作性OECD TGについては、既存のTGの改定だけでなく、新規代替法の承認により、汎用性を高めていく。
- ✓ 世界をリードしている免疫毒性試験代替法のOECD TG化については、AOPに基づき、複数の代替法のOECD TG化を目指す。
- ✓ In vitro発熱性物質試験代替法MATについては、validation studyから日局方収載まで総合的に推進する。

今後ともJaCVAMへのご指導、ご協力をお願い申し上げます。

ご静聴ありがとうございました

